

第 82 回日本放射線技術学会総会学術大会

大会長：林 秀隆（量子科学技術研究開発機構）



このたび、第 82 回総会学術大会（JRC2026）の大会長を務めることになりました、量子科学技術研究開発機構の林秀隆と申します。

JRC2026 は、2026 年 4 月 16 日（木）から 19 日（日）までの 4 日間、パシフィコ横浜で開催されます。例年と同じ会期ですが、今年は少し工夫を加えました。最終日の日曜日は午前中でプログラムを終了し、12 時から閉会式と Farewell Reception のみとしました。このため初日木曜日は、JSRT プログラムをすべての会場で 10 時から開始します。こうした取り組みは、皆さんの働き方改革にもつながると考えていますので、ご理解いただければ幸いです。

今回の大会テーマは「Radiology Connectome」です。放射線医学を中心に、臨床現場、医療スタッフ、科学技術、そして世界へと広がる「つながり」を表す言葉として選びました。学術大会は、知識を共有し、議論を深める場であると同時に、人と人、分野と分野を結ぶ機会を与えてくれます。このテーマには、そうした多層的な「つながり」を未来へ紡ぐ大会にしたいという願いを込めています。この「つながり」は、単なる交流にとどまりません。臨床現場で生まれる疑問が研究へと発展し、その成果が再び現場に還元される。この循環こそが、学会の価値であり私たちが目指す理想の形です。実行委員会では、この理念を具体化・具現化するために、さまざまな企画を準備しました。

JRC 合同シンポジウム 2 では、AI 初心者でも参加できる AI コンペ「AI Challenge in JRC2026」を開催します。次世代データサイエンス推進特別委員会の協力を得て企画したこの取り組みは、AI 技術の理解促進だけでなく、参加者同士の交流の場にもなることを期待しています。AI は難しいと思われがちですが、ここでは「初めて触れる方でも楽しめる」ような内容ですので是非ご参加ください。日本放射線技術学会のシンポジウム 3 では、臨床現場で働きながら研究に取り組む先生方をお招きして「研究の愉しみを臨床に～多職種で紡ぐ知と成長～」を企画しました。日々の業務の中で生まれる「なぜ？」を研究に昇華し、その成果を現場に還元されている取り組みの実例をご紹介しますので参考になれば幸いです。他にも、教育講演、ハンズオンセミナー、ワークショップ、ランチタイムレクチャー 15 セッションなど開催します。また、専門部会によるシンポジウムや一般発表も多数あり、臨床と研究、技術と人材、そして世代を超えた「つながり」を感じていただける大会になることを期待しています。

国際会議としては、第 5 回 ICRPT（International Conference on Radiological Physics and Technology）も並行して開催します。日本放射線技術学会と日本医学物理学会が共同で運営するこの国際会議は、最先端の研究成果を世界へ向けて発信する場として定着しつつありますが、今回も国内外から 140 件を超える演題が登録されたことから、本会が国際化へ向けて着実に前進していると感じます。一方、第 82 回総会学術大会の演題登録は 400 件を超え、コロナ後最多となりました。これは学会活動への関心が再び高まっている証だと感じています。

最後になりましたが、実行委員会、専門部会、多くの関係者のご協力のもと、総力を挙げて JRC2025 の準備を進めています。会員みなさまには、ぜひ横浜にお越しいただき、「Radiology Connectome」が生み出す新しい「つながり」を体感しつつ、学術大会を楽しんでいただければ幸いです。温かいご支援とご指導を、どうぞよろしくお願いいたします。

パシフィコ横浜で、皆さまにお会いできることを楽しみにしています。